

聞き取り調査 記録

調査実施日：平成23年7月25日（月）午後2時から3時

訪問先：岡田正男さん宅

上の平在住

調査目的・調査結果の活用方法（H23 共通）

自然に感謝し、自然と仲良く暮らしてきた昔の人々の知恵を掘りおこし、未来に向けて語りついでいく活動の一環として、「山内の昔」を知っている方々をこども達とともに訪ねてまわり、主に「水と暮らし」についての聞き取りを行う。

調査で教えてもらった内容は、研究発表の形で、あるいはお芝居の形にして（例えばふれあいコンサートなどで）山内の内外に発表・発信していく。

調査員

こども：5人

大人：3人

記録（とくにまとめず話の順に記録）

調べ）昔の水と暮らしに教えてください

井戸

- ・ 昔は、全部井戸だった。「はねつるべ」というものでくみ上げていた。顔を洗う、歯を磨く、ということだけでも井戸からくみ上げないと行けなかった。
- ・ 水は豊かだったので、水を買うという発想は無かった。水道が施設されるときも「ウチは要らない」という家もあった。
- ・ 井戸は、家によってさまざまであった。金気(かなけ：金属ぼさ)のある井戸もあった。しよるの毛を、桶に敷いて、ろ過してつかったりした。
- ・ 中の組、平子村は全然井戸が出ない家もあった。
- ・ 家によっては、良い井戸で「冬は暖かく、夏は冷たい」特別な井戸とされていた・
- ・ 井戸の水は使えば次の日に湧いてくるものであるが、水脈が変わったりすると、井戸がかれてしまうこともあり、掘りなおすこともあった。

お風呂

- ・ 風呂を沸かすのは、3日に1回、沸かしたら、他の家からも人がやってきて、14、15

人くらいが共用。沸かさない日は、他のうちへ行った。

昔の暮らしのこぼれ話

- ・ 昔は雷がよく落ちた。飛雷針がなかったため。雷がなると二軒、三軒の子どもがよって麻の蚊帳に隠れたものだ。
- ・ 昔はどこのお金(現金)はなかった。半年に1回、現金収入があったときに払う。しかし、店でものを買わなかった。家で作るか、買うとすればマッチくらい。ツケの金額は10円。(今のお金の値打ちで10万円くらい)
- ・ のんびりとした時代で、雨がふったら外仕事はしなかった。
- ・ しぶ柿のしぶを使って、防虫、防腐剤にした。
- ・ 医者にはめったにかからない。医者と呼ぶのは「いよいよ手の施しようがなくなった」とき。それも親戚を呼んで相談してからだった。
- ・ 昔は生活用品は竹細工で作った。
- ・ 昔は川に魚、鮎がたくさんいた。
- ・ 山は、植林されておらず雑林だった。柿や木の実がいっぱい成るから、学校から家に帰るときは、山を回って食べながら帰った。(昔でも人の家のものを食べるのは、ドロボウだそうです)
- ・ 鮎河の子どもたちと晩秋には、毎年ケンカをした。戦うのは強いものだけ。娯楽がない時代の娯楽であった。鮎河にかなうことはなかった。(鮎河は強かった)
- ・ 夏には、川を石やムシロでせき止めて30メートルくらいのプールにいて泳いだ。
- ・ 夏休みは、みんなで集まって宿題をした。
- ・ 藁を打つのは、子どもの仕事。藁ぞうりは消耗するために、毎日作り直した。悪くしないように、ぞうりを履かずに裸足で帰ったりした。昔は足の裏強かった。
- ・ お腹は冷やさないようにした。
- ・ 親からのいわれていたこと「人のものは取るな」、物もお金もない時代だった。

食事

- ・ めったに肉は食べなかった。イノシシや鹿は昔は食べなかったし、牛肉を食べるときは、1年に1回くらい、あまりに珍しいことなので、親戚と相談してから買って食べた。
- ・ ウサギは、昔は「食用」だった。飼っていたら半年か1年で成獣になる。「ウサギ取り」が学校の行事であって、みんなで野のウサギを狩って食べた。